

景況レポート

(4月分・情報連絡員80名)

円安の影響で業況に明暗

～国産材の利用・国内生産が増加～

【概況】4月の県内景況は、前年同月と比較して、景況が「好転」したとする向きが12.5%（前月調査12.5%）、「悪化」が36.3%（同42.5%）で、業界全体のDI値は-23.8となり、前月調査と比較して6.2ポイント上回り、平成24年7月以来9ヶ月ぶりにマイナス20台を回復した。

内訳として、製造業全体のDI値は-25.0で前月調査（-21.8）と比較して3.2ポイント下回った。また、非製造業全体のDI値は-22.9で前月調査（-35.5）と比較して12.6ポイント上回った。

4月は、天候が不安定だったために外出が控えられたことから商店街やタクシーの売上が伸び悩んだ。

また、円安の影響により、国内生産に割安感が出ており、製材品や繊維製品の受注が安定してきているが、燃料や輸入材料が高騰して収益の確保が難しい業種も見受けられる。

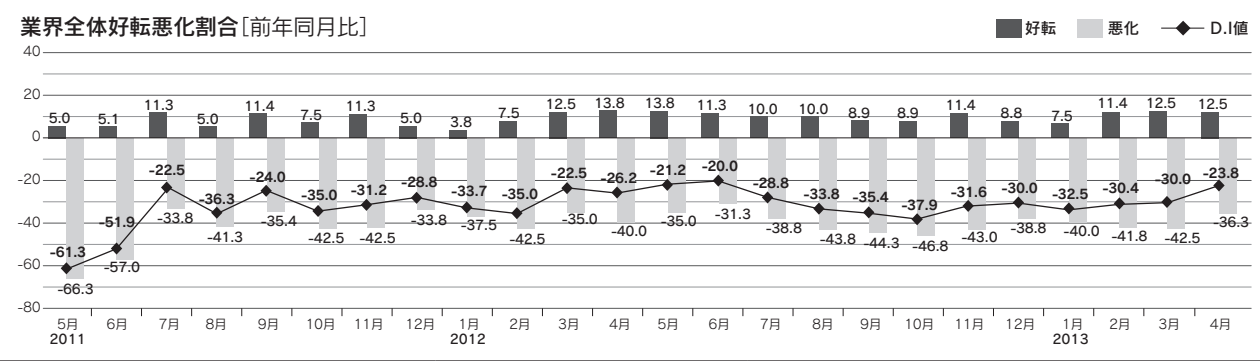
(回答数：80名 回答率：100%)

項目	業界の景況	売上高	販売価格	取引条件	資金繰り	雇用人員
業種						
製造業	☔	☔	☁	☔	☔	☔
非製造業	☔	☔	☔	☔	☔	☁

【凡例】

				【天気図の見方】 前年同月のDI値をもとに作成しています。
快晴 30以上	晴れ 10以上 30未満	曇り △10以上 △30未満	雷雨 △30以下	

※DI値とは、Diffusion Index（ティフュージョン・インデックス）の略で、増加（好転）したとする企業割合から、減少（悪化）したとする企業割合を差し引いた値です。



業界の声

パン製造	4月に入り天候も回復し、売上も上昇して来たが、未だ前年には届かない。また、セブンイレブンのオープンで固定客が流れており、売上に影響している。
ニット	各アパレルメーカーとも中国の件費上昇によるコスト増を嫌ってASEANにシフトしている。また、円安により総体的に国内生産に割安感が出ているため、国内工場の受注が安定しつつあるようだ。
外材	4月の丸太輸入量は、北洋材1船で0.8千立方メートルと少なく、近年の同時期の輸入実績では低調な傾向にある。国内市場の製材品需要は好調さを維持しているが、円安が進んで輸入材価格が上昇しているため、合板用材を中心に、人工秋田スギ材の利用が増加してきており、集成材分野でもその傾向にある。
生コン	4月の出荷数量は前年同月比95%程度。県内各地区で大型工事はあるが、原材料の値上がりや電気料金の値上げにより収益状況は厳しいことが予想され、各協同組合では4月より生コン価格の値上げを打ち出している。
自動車販売	4月の新車販売台数は、登録自動車1,896台（前年同月比97.4%）、軽自動車が2,388台（同105.4%）で、合計4,284台（同101.7%）となっている。軽自動車の販売が好調で、新車販売台数が3ヶ月ぶりに前年を上回った。
石油販売	ガソリン1ℓあたり152円50銭で前月比3円60銭の低下、軽油1ℓあたり134円50銭で前月比2円90銭の低下となった。原油相場の上昇で仕切価格は値上がりしているが、小売価格への転嫁が進まず苦戦している。
商店街	寒暖の差がありすぎ、春物衣料も動きが鈍く全般的に売上は低調であった。卒業、入学での祝い品等は御所野や駅前的大型店に客足が流れた。（秋田市）
タクシー	観桜会時期のズレや、寒さのための外出控えなどが要因となり、運行回数、運送収入共に前年を下回っている。
型枠工事	県内各地区において大規模、中規模のRC構造物の型枠施行が繁忙期となり、前年比で稼働率は高くなっている。
トラック	全体的に輸送量が低迷しているが、それよりも軽油価格の高止まりの方が厳しい。